

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	ホームの新聞「スマイル」を地域に回覧している。近所のスーパーに買い出しに出かけたり、時々はお茶店でお茶を楽しんだりしている。町内会に加入し、こども110番も引き受けている。小学校、幼稚園とも交流があり、よくホームを訪問していたが今は新型インフルエンザ流行のため控えている。地域には入居者の誕生日カードを匿名でポストに届けてくれる「あしながおじさん」がいる。	
重点項目	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	民生委員、児童委員、区政協力委員、社会福祉法人理事長、家族、社長、施設長をメンバーとしている。行事報告、地域高齢者の状況、職員の状況、外部評価の結果及び本年度の受審等を報告し、新規開設予定である共用型デイサービスの進捗状況も報告されている。	
重点項目	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	新年度から、より地域に密着するため、共用型デイサービス開設の計画があり、そのため頻繁に行政担当者を訪れ相談をしている。今後さらに、地域福祉の要である行政と、最も現場の実情を知るホームとの協働により、入居者にとってさらに住みよいホーム、町となるよう、行政との関係づくりに期待される。	
重点項目	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族会は年2回開催し、参加家族から希望、要望を聴取している。毎月、請求書と共に職員から入居者の状況を手紙、写真で知らせ、好評を得ている。日頃の訪問や家族会の時に施設長、計画作成担当者が家族の要望を細かく聞き、職員と共にプランを練り上げている。	
重点項目	その他軽減措置要件	評価
	「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	
	運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅街として交通の便もよくのどかな環境にある。代々受け継がれた土地に結びついた旧家ばかりで、外部者が馴染むのには時間を要する立地条件であるが、社長が地元の方ということもあり、すんなり地域に溶け込むことができた。開設から5年が経過し、職員の能力も向上し、ホームが掲げる「笑顔で生活できる」ための職員一人ひとりの自覚が育ち、その基礎体力が確立できてきたと施設長は感じている。また、「重度化してもホームで笑顔で暮らしてもらうための職員の底力は、よその職員にも負けない」と施設長は胸を張る。

1. 外部評価軽減要件

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。

運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。

運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2 外部評価軽減要件 における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。